

委託事務所検査指示書

検査日 令和 年 月 日

工事名	大阪府営〇〇第1期高層住宅(建て替え)新築電気設備工事		
検査員			
立会者		監督員	〇〇事務所 〇〇 〇〇
No.	指 示 事 項	手 直 し 確 認 日	確認者
1		/	
2		/	
3		/	
4		/	
5		/	
6		/	
7		/	
8		/	
9		/	
10		/	
11		/	
12		/	
13		/	
14		/	
15		/	
16		/	
17		/	
18		/	
19		/	
20		/	
21		/	
22		/	
23		/	
24		/	
25		/	

完了届

令和 年 月 日

大阪府 様

所 在 地
商号又は名称
代 表 者 氏 名

下記のとおり完了しましたのでお届けします。

記

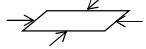
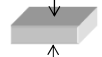


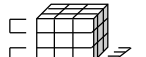
委託業務の名称	
完了年月日	令和 年 月 日

フロー別チェックリスト

各段階毎に、検討をしたかチェックを行う。

企画・計画段階		設計段階					
基本計画		基本設計-1		基本設計-2		実施設計	
与 条 件 の 確 認 ・ 確 定	<input type="checkbox"/> 施設の合築などの複合化を検討する、室用途の兼用を図る <input type="checkbox"/> 利用想定に合わせた適正面積を設定する <input type="checkbox"/> コンセプト・全体目標性能を明確にする、適正にする <input type="checkbox"/> 用途・規模に合致した敷地を選定する <input type="checkbox"/> 工期設定を適正化する	建 築 設 計 意 匠	<input type="checkbox"/> 敷地条件に合致した設計を行う <input type="checkbox"/> 建物高さを20m以下、31m以下に抑える <input type="checkbox"/> 構造を考慮した層構成 <input type="checkbox"/> 共用スペースを効率的に配置する <input type="checkbox"/> 階高を抑える <input type="checkbox"/> 空調負荷に有利な配置・ループ・方向・フロー・ゾーンを計画する <input type="checkbox"/> コア・水廻り・PS・DS・EPS・機械室の位置を <input type="checkbox"/> 合理的な設備室の位置検討 <input type="checkbox"/> 建物用途・機能に合致したデザインを形成する <input type="checkbox"/> 吹抜空間の厳選 <input type="checkbox"/> 曲面・凹凸を限定する <input type="checkbox"/> 空間グレード設定の序列化・重点化を図る	<input type="checkbox"/> 建物配置に延焼ラインを考慮する <input type="checkbox"/> 無窓階をさける <input type="checkbox"/> 効率的な防火・防煙区画を設定する <input type="checkbox"/> 床下ピット・貯水槽を縮減する <input type="checkbox"/> 割付をそろえる（モジュール化） <input type="checkbox"/> 断熱性能を向上させる <input type="checkbox"/> 庇・バルコニー・風除室等建物形態により負荷を低減する <input type="checkbox"/> 天井高・建具高等をそろえる <input type="checkbox"/> 乾式工法を採用する <input type="checkbox"/> 仮設を考慮する <input type="checkbox"/> 施工スペースを考慮した配置とする <input type="checkbox"/> 切り盛り土量のバランスを良くする	<input type="checkbox"/> 特殊材料の使用を限定し、一般材料を採用する <input type="checkbox"/> 特注品・役物の制作を少なくする <input type="checkbox"/> ディテールを単純化する <input type="checkbox"/> 自然エネルギーを利用する <input type="checkbox"/> メンテナンスに配慮する		
			<input type="checkbox"/> 経済的な構造種別を選定する <input type="checkbox"/> 平面・断面のバランスを良くする <input type="checkbox"/> 経済スパンを採用する <input type="checkbox"/> 耐震性能を明確に限定する、過大にしない <input type="checkbox"/> 荷重設定の適正化を図る	<input type="checkbox"/> 経済的な工法を選定する <input type="checkbox"/> レベルをそろえる、フレームを直交連続させる <input type="checkbox"/> スパン・階高・部材サイズを統一する <input type="checkbox"/> 重荷重エリアを限定する	<input type="checkbox"/> 副部材を極力なくす		
			<input type="checkbox"/> 法面による造成計画	<input type="checkbox"/> 舗装範囲・重耐圧舗装範囲の限定及び効率化を図る <input type="checkbox"/> 排水ルートを効率化する	<input type="checkbox"/> 高価格材料を限定する		
			<input type="checkbox"/> 地下階を極力作らない <input type="checkbox"/> 経済的な階数を設定する <input type="checkbox"/> 平面の細長比を抑える	<input type="checkbox"/> 経済的なELV方式を選定する	<input type="checkbox"/> システム選定の判断を明確にする <input type="checkbox"/> 照度設定・照明器具台数の適正化を図る <input type="checkbox"/> 情報・AVシステムグレードの適正化を図る <input type="checkbox"/> 照明器具配列のモジュール化を図る	<input type="checkbox"/> 盤構造の簡略化・小型化を図る <input type="checkbox"/> 省施工型照明器具を採用する <input type="checkbox"/> 特注照明器具の使用を限定し、既製品を採用する <input type="checkbox"/> 地中線路・外灯工事の合理化を図る <input type="checkbox"/> メンテナンス・システム更新への配慮を行う	
配 置 ・ ブ ロ ミ ク ブ ラ ン		設 備 設 計	<input type="checkbox"/> 設備スペースの位置及び空間の合理化を図る	<input type="checkbox"/> 空調ゾーニングの適正化を図る <input type="checkbox"/> 空調範囲を効率的に設定する <input type="checkbox"/> 引き込み・放流ルート設定の合理化を図る <input type="checkbox"/> システム選定の判断を明確にする <input type="checkbox"/> 防火設備で合理化を図る <input type="checkbox"/> スプリンクラーヘッド配列の合理的モジュール化を図る	<input type="checkbox"/> 機器材料選定の適正化を図る <input type="checkbox"/> メンテナンス・システム更新への配慮を行う		
			<input type="checkbox"/> 空調ゾーニングの適正化を図る <input type="checkbox"/> 空調範囲を効率的に設定する <input type="checkbox"/> 引き込み・放流ルート設定の合理化を図る <input type="checkbox"/> システム選定の判断を明確にする <input type="checkbox"/> 防火設備で合理化を図る <input type="checkbox"/> スプリンクラーヘッド配列の合理的モジュール化を図る	<input type="checkbox"/> 機器材料選定の適正化を図る <input type="checkbox"/> メンテナンス・システム更新への配慮を行う			

総括表

コストダウン手法	コストダウン指針	建築設計					
		a. 企画・計画	b. 意匠	c. 構造	d. 外構	e. 電気	f. 機械
1. 面積の効率化 	コスト全体に最も影響するのが建物面積である。計画段階では全体規模を圧縮することを検討し、設計段階では面積の効率化を図ることで、有用なコスト配分を行う。	<input type="checkbox"/> 施設の合築などの複合化を検討する、室用途の兼用を図る <input type="checkbox"/> 利用想定に合わせた適正面積を設定する	<input type="checkbox"/> 共用スペースを効率的に配置する				
2. ボリュームの低減 	ボリュームは面積が決定した中では高さによって決まる。ボリュームを抑えることで躯体ボリューム、土量、仕上面積、設備負荷を低減し、コストを縮減する。	<input type="checkbox"/> 地下階を極力作らない	<input type="checkbox"/> 階高を抑える <input type="checkbox"/> 床下ビット・貯水槽を縮減する <input type="checkbox"/> 吹抜空間の厳選				
3. 形態の単純化 	複雑な形態では、表面積が大きくなり、躯体・仕上数量が増え、部材単価もあがる。全体の形態もディテール形状もシンプルに整理することでコストダウンを行う。	<input type="checkbox"/> 平面の細長比を抑える	<input type="checkbox"/> 曲面、凹凸を限定する <input type="checkbox"/> ディテールを単純化する				
4. 構成の合理化 	同じ大きさ・形であっても、各室・構成要素の配置や組合せを合理化することにより、コストを低減できる。各要素をバランス良く配置すること、同一要素の位置をそろえることで合理化を行う。	<input type="checkbox"/> 経済的な階数を設定する	<input type="checkbox"/> 構造を考慮した層構成 <input type="checkbox"/> コア、水廻り、PS、DS、EPS、機械室の位置をそろえる <input type="checkbox"/> 合理的な設備室の位置検討	<input type="checkbox"/> 平面、断面のバランスを良くする <input type="checkbox"/> 経済スパンを採用する <input type="checkbox"/> 重荷重エリアを限定する	<input type="checkbox"/> 排水ルートを効率化する	<input type="checkbox"/> 盤構造の簡略化、メーカー標準品の採用、小型化を図る	<input type="checkbox"/> 設備スペースの位置及び空間の合理化を図る
5. 構成の単純化 	各構成要素の寸法・サイズをそろえ単純化して構成要素の種類を少なくすること、モジュール化を図ることにより加工費を低減し、材料単価を下げる。		<input type="checkbox"/> 割付をそろえる（モジュール化） <input type="checkbox"/> 天井高、建具高等をそろえる	<input type="checkbox"/> レールをそろえる、フレームを直交連続させる <input type="checkbox"/> スパン、階高、部材サイズを統一する		<input type="checkbox"/> 照明器具配列のモジュール化を図る	<input type="checkbox"/> スプリンクラーヘッド配列の合理的モジュール化を図る
6. デザイン性の向上	過美・過剰なデザイン・装飾を行うのではなく、合理的な設計を行う中で、建築的なデザイン性を向上させる。		<input type="checkbox"/> 建物用途・機能に合致したデザインを形成する				
7. 性能目標の適切化	建物に要求される性能を初期に明確に設定し、部位によってアンバランスな過剰設定にならない様、求められる機能・コンセプトに合致した建物にする事で、コストコントロールを行う。	<input type="checkbox"/> コンセプト・全体目標性能を明確にする、適正にする	<input type="checkbox"/> 空間グレード設定の序列化・重点化を図る	<input type="checkbox"/> 耐震性能を明確に限定する、過大にしない <input type="checkbox"/> 荷重設定の適正化を図る		<input type="checkbox"/> 照度設定、照明器具台数の適正化を図る <input type="checkbox"/> 情報、AVシステムグレードの適正化を図る	<input type="checkbox"/> 空調ゾーニングの適正化を図る
8. 工法・システムの適切化	各工法・システムは目標性能にあわせて経済的・合理的なものを比較検討した上で採用する。		<input type="checkbox"/> 乾式工法を採用する	<input type="checkbox"/> 経済的な構造種別を選定する <input type="checkbox"/> 経済的な工法を選定する		<input type="checkbox"/> システム選定の判断を明確にする <input type="checkbox"/> 経済的なE.L.V方式を選定する	<input type="checkbox"/> システム選定の判断を明確にする
9. 材料の限定化	材料単価を低減するためには、高価格材の使用を限定すること、一般普及材料を使用する事等でコストを抑える。		<input type="checkbox"/> 特殊材料の使用を限定し、一般材料を採用する <input type="checkbox"/> 特注品・役物の制作を少なくする		<input type="checkbox"/> 高価格材料を限定する <input type="checkbox"/> 舗装範囲、重耐圧舗装範囲の限定及び効率化を図る	<input type="checkbox"/> 特注照明器具の使用を限定し既製品を採用する	<input type="checkbox"/> 機器材料選定の適正化を図る
10. 設備負荷の低減	設備負荷（特に空調負荷）を低減することで設備システムコスト及びエネルギーランニングコストを下げる。		<input type="checkbox"/> 空調負荷に有利な配置・形状・方位 ・ブロックプランを計画する <input type="checkbox"/> 庇、バルコニー、風除室等建物形態により負荷を低減する				<input type="checkbox"/> 空調範囲を効率的に設定する
11. 法規制の合理的適用	建築基準法及び消防法等では、ある一定条件を越えると法規制が付加されるものが多い。建物を計画する上で、その法規制の条件値範囲内に極力抑え、コスト低減を行う。		<input type="checkbox"/> 建物高さを20m以下、31m以下に抑える <input type="checkbox"/> 建物配置に延焼ラインを考慮する <input type="checkbox"/> 無窓階をさける <input type="checkbox"/> 効率的な防火・防煙区画を設定する				<input type="checkbox"/> 防火設備で合理化を図る
12. 敷地条件の合理的利用	建築計画は敷地条件によって大きくコストが左右されるため、敷地選定とそれに対する建築計画は経済的な検討が必要であり、敷地条件を十分に読み取ることが重要である。	<input type="checkbox"/> 用途・規模に合致した敷地を選定する	<input type="checkbox"/> 敷地条件に合致した設計を行う <input type="checkbox"/> 切り盛り土量のバランスを良くする		<input type="checkbox"/> 法面による造成計画	<input type="checkbox"/> 地中線路、外灯工事の合理化を図る	<input type="checkbox"/> 引き込み・放流ルート設定の合理化を図る
13. 施工性の向上	各部位工事費の削減だけでなく、全体施工計画を検討することにより、工期圧縮と仮設工事の削減等によりコストを縮減する。	<input type="checkbox"/> 工期設定を適正化する	<input type="checkbox"/> 施工スペースを考慮した配置とする <input type="checkbox"/> 仮設を考慮する			<input type="checkbox"/> 省施工型照明器具を採用する	
14. 運営・管理コストの低減	建設コストだけでなく、ライフサイクルコストの視点からメンテナンス、ランニングコストの低減を図る。		<input type="checkbox"/> 自然エネルギーを利用する <input type="checkbox"/> メンテナンスに配慮する			<input type="checkbox"/> メンテナンス・システム更新への配慮を行う	<input type="checkbox"/> メンテナンス・システム更新への配慮を行う

施設名称 : _____

公共建築整備チェックシート

チェック内容		手法・方策	チェック
① 国際的な交流の場	<input type="checkbox"/> 世界を視野に入れた施設づくり	● 国際的水準の施設づくりを目指す ○ 世界に通用する規模、内容及び質を設定する ()	
		● 施設計画に海外のノウハウを生かす ○ 国際コンペを行う ○ 海外の設計者の参加を得る ()	
		● 地域サービス施設の国際化をはかる ○ 国際統一ビクトグラム(絵文字)の採用や外国語併記のサイン計画を行う ○ 外国人相談窓口を設ける ○ 情報コーナーを設ける ()	
② 大阪文化の向上や創造に寄与する	<input type="checkbox"/> 多彩な文化活動に対応する施設づくり	● 文化支援機能を具えた文化施設をつくる ○ 特色ある文化施設づくりを行う ○ 演劇、音楽活動の稽古場等支援機能を具える ()	
		● 文化的な機能を導入する ○ 日常的な文化活動、生涯学習に対応するホール、ギャラリー等を設ける ()	
	<input type="checkbox"/> 文化性・芸術性の高い施設づくり	● 建築物そのものの文化性・芸術性を向上させる ○ ゆとりある内部空間(十分な天井高、吹き抜け空間、中庭等)をつくる ○ 伝統的建築様式の部分的な保存を行う ()	
		● 芸術作品を建築物に取り入れる ○ 壁画、彫刻等の芸術作品を屋内・屋外に取り入れる ()	
	● 歴史的ストックの継承・活用をはかる ○ 歴史的建造物や埋蔵文化財などの調査を行う ○ 調査結果に基づき現地保存、記録保存等を行う ()		
③ 施策を策反の映主する	<input type="checkbox"/> 主要施策の反映	● 大阪府長寿社会対策長期ビジョン ● 大阪府V Iプラン ● 大阪府青少年育成計画 ● 大阪府文化振興ビジョン ● 大阪府環境総合計画 ● 大阪みどりの10年推進方針 ● 大阪府緑のマスタープラン ● 大阪府情報政策ビジョン ● 大阪府住宅マスタープラン ● 大阪府福祉のまちづくり条例 ● 大阪府景観条例 ● 大阪府地域福祉推進計画 ● 障害者対策に関する大阪府新長期計画 ● 男女協働社会の実現を目指す大阪府第3期行動計画 ● 大阪府地球温暖化対策地域推進計画 ● 大阪府施設緑化基準 ● 道路附属構造物色彩マニュアル ● 建築美観誘導実践のマニュアル ● 施設緑化10カ条 (●)	
④ まちの魅力を高め、活性化に役立てる	<input type="checkbox"/> 周辺環境と調和した外部空間づくり	● 「みどりの拠点」をつくる ○ 施設緑化基準を充足する ()	
		● 建物や周辺環境とつりあいのとれた広場を確保する ○ 建てがまった市街地では圧迫感を解消するように配慮する ○ 建物とのバランスを考慮する ○ 広場の利用者数を配慮する ()	
		● 適切な駐車場を確保する ○ 駐車需要を予測する ○ 周辺地域の公共交通機関の整備状況を把握する ○ 周辺地域の駐車場整備状況を把握する ○ 市町村の駐車場整備計画や駐車場附置義務条例を把握する ()	
		● 周辺環境を考慮して施設の形態・規模を設定する ○ 周辺環境やまち並みとの調和を考慮して形態・規模を設定する ()	
	<input type="checkbox"/> 地域の新しい核づくり	● 交通の結節拠点等には拠点施設をつくる ○ 交通結節点等には、まちの魅力を高める文化・芸術・スポーツ施設等を計画する ()	
		● 地域再生の核づくりに公共建築を生かす ○ 市街地再開発や公的住宅更新などの地域整備事業へ参画する ()	
	<input type="checkbox"/> まちの活性化につながる施設づくり	● 地域整備の視点から施設計画をすすめる ○ 敷地をも含む周辺地域の調査を行い施設機能や関連施設の整備内容を検討する ()	
		● まちのにぎわいを高める機能を導入する ○ 利用者へのサービス水準を高める喫茶・レストラン・情報コーナーなどを併設する ()	

チェック内容	手法・方策	チェック
⑤ 適切な立地の選定や施設の複合化をはかる	<input type="checkbox"/> 適切な立地選定と施設機能の設定 ● 施設内容にふさわしい敷地を選定する ○ 総合計画等との整合をはかる ○ 利用圏域を設定する ○ 類似施設、関連施設との調整を行う ○ 交通状況を把握する ○ 地域活性化への貢献に配慮する ○ 建築上の諸条件を検討する ()	
	● 敷地に関する情報を集める ○ 敷地の情報を把握し、妥当性を検討する ○ 建設予定の施設に関する情報を把握する ○ 新築される施設の情報を把握する ()	
	<input type="checkbox"/> 効果を十分考慮した施設の複合化 ● 機能補完をはかり、利便性を高める ○ 機能を高め合う施設の複合化や利用時間の異なる施設の複合化を行う ○ 時間帯によって他の用途に利用する ()	
	● 新たな価値を生み出す ○ 文化施設の特徴づくりを行う ○ 文化、芸術に関する研究施設や演劇音楽活動の稽古場などを導入する ○ 美術館、コンサートホールなどを複合化する ()	
	● 公共用地の有効活用をはかる ○ 余裕のある敷地に他の施設を複合化する ○ 面的で単一目的の施設と他の施設を複合化する ○ 立地条件の優れた敷地に施設を複合化する ()	
● ゆとりある公共空間をつくる ○ 施設の複合化によってゆとりある共用空間をつくる (吹き抜けをもつロビー空間など) ()		
⑥ 多様化するニーズに対応する	<input type="checkbox"/> 利用者の意向を踏まえた施設計画 ● 利用実態を把握する ○ 類似施設の利用実態調査、各種の統計調査、アンケート等の基礎調査で需要予測を行う ()	
	● 利用者の参加を得て企画内容を高める ○ 協議会等の利用者参加組織をつくり、利用者の意見を計画に反映させる ()	
	● 利用者や職員のアイデアを生かす ○ アイデアコンペを実施する ()	
	<input type="checkbox"/> 専門家の意見を反映した施設計画 ● 専門家を中心とする組織をつくる ○ 新しいタイプの施設計画では専門家を中心とした組織をつくり、管理運営、採算計画などを検討する ()	
● コンペを実施し、多くの専門家の英知を結集する ○ アイデアコンペ、設計競技（コンペ）、事業提案競技（コンペ）などを実施する ()		
⑦ 施設の質的向上をはかる	<input type="checkbox"/> 施設内容にふさわしい質の設定 ● 施設にふさわしい内容にする ○ 施設の特性に応じた”らしさ“を具えるよう、仕上げ、設備、耐用年数などを検討する ○ 100年以上の利用が期待される施設は、文化遺産となるような記念的建築物としていく ()	
	<input type="checkbox"/> 地球環境との共生 ● 環境共生技術を導入する ○ 建物の用途・規模・地域性に応じた環境共生技術を導入する ()	
	<input type="checkbox"/> ライフサイクル設計の視点の導入 ● 目標耐用年数を定める ○ 長期的な経済性を具えた施設をつくるため目標耐用年数を設定する ()	
	● 長期的な経済性を重視し、内外装材や設備の質を高める ○ 仕上げ材や設備機器等の質を高めつつ、ライフサイクルコストを抑える視点で質を設定する ()	

チェック内容		手法・方策	チェック
⑧ 長期的視野にたいて施設規模・内容を定める	□行政需要の変化に対応する施設規模の設定	●適切な機能を導入する	○施設本来の機能のほか、まちの活性化や多様なニーズへの対応等、総合的に検討する ()
		●施設の運営計画を考慮して諸室の確保を行う	○諸室の設定に施設の運営計画を反映させる(利用者数、利用時間等) ()
		●適切な専用空間を確保する	○諸室の規模設定に施設の利用の仕方(会議等)、利用者数、導入する機器などを反映させる ○諸室の適切な1人当たり面積を確保するとともに組織の改編などに対応できるゆとりある専用空間を確保する ()
		●十分な共用空間を確保する	○人びとの交流の場にふさわしい十分な大きさのロビー空間等を確保する ()
	□フレキシビリティの確保	●フレキシビリティを確保する計画を行う	○家具等の配置の変更が容易に行えるグリッド(スパン割り)を採用する ○O A化に対応できる床(天井)システムを採用する ○間仕切り壁の配置変更が容易に行えるように配慮する ()
		●フレキシビリティを確保する設備計画を行う	○設備の維持管理、更新などが容易に行える階高とするほか、パイプスペース、機械室などにゆとりをもたせる ()
		●増築などに対応できるリザーブスペースを確保する	○将来のニーズの変化に対応するため、リザーブスペースを確保する ()
⑨ 施好な管理計画を高め立案する運営や	□施設利用度を高める運営計画の立案	●諸室の運営計画をつくる	○諸室の利用目的(業務内容)、諸室の利用日時、諸室の利用者数、導入する機器、利用者の属性(職員・市民・年齢層)、諸室の関連性などを明らかにする ()
		●施設を多目的に活用する	○玄関ホールやロビーなどを多目的に利用できるよう運営・管理計画を検討する ()
		●施設を有効に活用する	○利用時間帯によって他の用途への活用を検討する ○施設の開放を検討する(夜間・休日等の独立利用が可能となる工夫等) ()
	□運営計画にふさわしい管理計画の立案	●施設内容にふさわしい管理計画をつくる	○施設の複合化、多機能化、施設の開放、多目的利用などに対応する防災システムや維持保全等を含む管理計画を立案する ()
	□施設を支える運営・管理体制	●運営・管理計画を生かす方式を採用する	○施設の運営・管理計画の内容に見合った運営・管理方式を採用する(直接方式・委託方式等) ()
		●運営・管理人員を立案する	○運営・管理方式の検討に併せて管理組織とその構成人員を立案する ()

受領書

令和 年 月 日

_____の報告書を
受領しました。

家屋 No. _____

住所 : _____

氏名 : _____

工事名 大阪府営

工 事 監 理 報 告 書

目 次

- 0 監理業務委託要領書
 - 1 業 務 計 画 書
 - 2 工 事 概 要 書
 - 3 監 理 報 告 書
(諸官庁届出・検査済証等)
 - 4 監 理 体 制 表
 - 5 出 勤 簿
 - 6 打 合 せ 記 録
 - 7 工 事 立 会 い 写 真
-

工事名 大阪府営

工 事 監 理 報 告 書

0 監理業務委託要領書

工事名 大阪府営

工事監理報告書

1 業務計画書

工事名 大阪府営

工事監理報告書

2 工事概要書

工事名 大阪府営

工 事 監 理 報 告 書

3 監 理 報 告 書
(諸官庁届出・検査済証等)

工事名 大阪府営

工事 監 理 報 告 書

4 監 理 体 制 表

工事名 大阪府営

工事監理報告書

5 出勤簿

工事名 大阪府営

工事監理報告書

6 打合せ記録

工事名 大阪府営

工 事 監 理 報 告 書

7 工事立会い写真

成果品引渡書

令和 年 月 日

大阪府 様

所 在 地
商号又は名称
代 表 者 氏 名

下記のとおり、委託業務が完了し、検査に合格しましたので成果品を引き渡します。

記

委託業務の名称	
完了年月日	令和 年 月 日

木材使用量見込み調書

委託業務の名称：

工 種	単位：m ³ (A)：木材使用量（外国産材含む全使用量） (B)：(A)のうち国産材指定の使用量 (C)：(B)のうち府内産木材指定の使用量			摘要
	(A) m ³	(B) m ³	(C) m ³	
総合計	0.00	0.00	0.00	

行が足りない場合は適宜追加してください。

記載にあたっての留意事項

※1m³以上の項目について記載してください。（各項目について使用量が1m³未満の項目については記載不要）

※府内産材を使用している項目については、摘要欄に材種を記載ください。（例「いずもく」等）

※木材使用量については、樹脂木材や再生木材も含まれます。

※型枠については木材使用量に含みません。（捨て型枠は木材使用量に含みます。）

【工種の記載例】

○柵工、支柱、階段工、デッキ工、内装工事、外装工事、雑工事、構造材

※出来る限り詳細に記載してください。